

令和2年度 小樽市立北陵中学校 学校経営方針

校長 宮澤 知

1 はじめに

未来に責任を持つ

子ども達の現在と未来は、私たちの経験値だけでは補うことはできない。しかし、学校には、人間として見失ってはいけないものを子ども達に伝え、つなげていく責任がある。

統合して3年で築き上げてきたものは、誰もが、校訓の「よりよく創る」を心に留め、日々を真摯に生きる姿である。

行く先が見えないと嘆くより、困難な状況でも生き抜ける力を見定め、どの子にもその力を身につけさせる教育を実践し、子ども達の未来に責任を持とう。

新しいことがすぐに古くなる。常に自分自身をアップデートしなければならないのが現実である。時代がどのように変わろうとも、確かな見極めの目を磨き、臆する事なかれ、諦める事なかれ。そして、校訓を忘れるなかれ。よりよい北陵を創っていこう。

2 校訓

よりよく創る

未来を切り拓く子ども達には、集団生活の中で、今よりも一歩前へ、今よりも一段高くと思う、その心の大切さを教え、導き、チャンス場を創造し、試行錯誤をさせ、心も体も大きくするのが学校に与えられた役割だと考える。

どのような場面でも、今よりも良くしようとするなら、多くの仲間と力を合わせる大切さを知る。話し合うために自分の考えを持たねばならない。そのためには、沢山の思考が必要となり、自分の思いを伝えるためには表現する力が重要となる。局面を判断する力も当然。つまりは、「よりよく」という思いが人を動かす。

生徒が、自分自身を「よりよく創る」という場面は、学校生活のど真ん中の日々の授業で実現される。私たちは、未来を生きる生徒のために、謙虚に、プロとして自らの仕事を見つめ、子どもたちがワクワクし、目を輝かせる「よりよい」授業を創ろう。

3 学校経営方針

(1) 教育目標

小樽の未来をつくる 北陵生の育成

《目指す生徒像》

- 深く学び、考え、表現できる生徒
- 豊かに人とつながり、思いやりのある生徒
- たくましく心身を鍛え、自らを律する生徒

小樽市立の学校教育の大きな目標は、社会にとってより有為な人材を育てることにある。北陵生がまちづくりの担い手として、その基礎となる力を育むために3つの目標を掲げている。

これからの学習では、学んだことが活用できる力が求められる。そのためには、その事象を「なぜだろう」と主体的に考え、表現できるスキルを身につけなければならない。その学びは、他者との豊かなつながりの中で、議論された質の高い答えを導き出すことが必要である。さらに、仲間とよりよくつながるためには、自分自身をしっかりとコントロールできる心身のたくましさが必要である。本校では、この3つの力をすべての教育活動の中で、バランス良くはぐくむ。

(2) 令和2年度 学校経営の重点

「未来につながる力を育てる」～小中一貫教育の推進～

本校が抱える課題は「学力」と「不登校」である。小学校、幼保との接続を意識した中学生の段階として身に着けるべきスキルを明確にし、予測不可能な時代を生き抜ける生徒を育てることが何よりも学校経営の重点となる。

今年度、統合後の3年間の実践を土台に、目指す生徒像につなぐ、「生徒の33 SKILL」及び「教職員の3 ACTION」を定め、あらゆる教育活動における実践を目指す。

各評価（生徒、保護者、教職員）の達成率（「できている」と回答した数値）を8割以上となることを目指す

① 目指す生徒像につなぐ「生徒の33 SKILL」

○目指す生徒像：深く学び、考え、表現できる生徒
○テーマ：主体的に学ぶ力を育て、高める
【1年生の重点 SKILL】
s1.立腰ができる s2.正しい言葉遣いができる s3.学ぶ意味を理解することができる
【2年生の重点 SKILL】
s4.文章を正しく「読み取ること」ができる s5.他人の考え、思いを、「聞くこと」ができる s6.自分の考え、思いを、「持つこと」ができる s7.自分の考え、思いを、「書くこと」ができる
【3年生の重点 SKILL】
s8.自分の考え、思いを「まとめること」ができる s9.自分の考え、思いを、「話すこと」ができる s10.自分の考え、思いを、「表現すること」ができる s11.自分の考え、思いを、「深めること」ができる
○目指す生徒像：豊かに人とつながり、思いやりのある生徒
○テーマ：コミュニケーション能力を向上させ、社会性を高める
【1年生の重点 SKILL】
s12.気持ちの良い挨拶をすることができる s13.マナー、モラルを大切にすることができる s14.感謝することができる
【2年生の重点 SKILL】
s15.周りの人たちに敬意を払うことができる s16.責任感をもって物事に取り組むことができる s17.自分を大切にすることができる s18.相手意識に立つことができる
【3年生の重点 SKILL】
s19.多様性を認めることができる s20.様々な人の努力を認め、共感することができる s21.他人と協力し、達成感を得ることができる s22.自分のキャリア、生き方を考えることができる
○目指す生徒像：たくましく心身を鍛え、自らを律する生徒
○テーマ：集団としての自治的能力を育て、高める
【1年生の重点 SKILL】
s23.真面目に人と関わろうとすることができる s24.時間を意識して行動することができる s25.場をきれいにすることができる
【2年生の重点 SKILL】
s26.話し合いに積極的に参加できる s27.学級・学年に所属感を持つことができる s28.あきらめずに、強い心を持ち、努力することができる s29.挑戦する心を持つことができる
【3年生の重点 SKILL】
s30.危険予測・回避の能力を高めることができる s31.ストレス対処力を身につけることができる s32.生徒会活動に積極的に参加することができる s33.地域に貢献することができる

② 目指す生徒像につなぐ「教職員の3 ACTION」

※①～③ 学習指導要領「育成を目指す資質・能力の3つの柱」

A1: 研究する～「徹底した授業改善と教材研究」

- ① 何を理解しているか、何ができるか（知識・技能）

A2: 指導する～「生徒のそばで、教え、導き、気づかせる指導」

- ② どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

A3: 場をつくる～「生徒の経験値を高める場の設定」

- ③ 理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）

(3) 具体的実践

深く学び、考え、表現できる生徒

～主体的に学ぶ力を育て、高める～

【学校の取組】

1：学力向上

- ① 小中9年間を通じた学力の向上
・9年間の教育課程、学力向上、学習規律づくり等
- ② 教師の授業力の向上
・UD、ALの推進、校内研修の活性化
- ③ 中1ギャップ解消を目指した小学校との授業等の交流
・「小中一貫教育推進委員会」の機能強化
- ④ 加配を活用した個別指導の充実
・T.T、習熟度別指導等による学習支援の保障
- ⑤ 学習室「北陵塾」の活用の工夫
・教科との効果的な接続
- ⑥ 計画的なキャリア教育、進路指導の充実
・新たな学習指導要領のねらいを踏まえた総合的な学習の時間の充実
- ⑦ 教師、生徒によるICT機器の効果的な活用
・タブレット等におけるプレゼンテーションスキルの向上
- ⑧ 学校図書館と授業の積極的な連携
- ⑨ 「NIE」の取組による国語力の向上
- ⑩ 各種検定（英検、漢検等）の資格取得の推奨

2：特別支援教育の充実

- ① 合理的配慮に基づく支援の充実
- ② 特別支援教育支援員との連携・充実
- ③ 校内支援委員会の機能向上
- ④ 2小学校との交流推進
- ⑤ 関係機関の積極的な活用・連携

3：家庭学習の定着

- ① 小学校と連携、接続を踏まえた家庭学習の指導
- ② 小樽市のルール「おたるスマート7」の指導

【家庭の取組】※家庭が役割を担って取組む内容

1：家庭における生活リズムの確立

- ① 家庭学習親子のルールづくり
- ② メディアチェックシート等の点検
- ③ 学習環境の整備
- ④ 小樽市のルール「おたるスマート7」の点検

【地域の取組】※地域が役割を担って取組む内容

1：学習支援活動

- ① 放課後学習や長期休業中の学習支援
- ② 図書館整理等、学習環境にかかわる支援

2：職場体験支援

- ① 北小樽地区の企業との連携

3：出前授業

- ① 総合博物館との連携
- ② キャリア教育講師等の支援

豊かに人とつながり、思いやりのある生徒

～コミュニケーション能力を向上させ、社会性を高める～

【学校の取組】

1：生徒指導の充実

- ① 小中連携した生徒指導
- ② 教職員の指導の在り方を示す生徒指導の推進
- ③ 学校組織としての共通理解・共通行動の徹底
・「とらえる」「ほぐす」「みちびく」「のぼす」「はなす」指導の徹底

2：道徳教育の充実

- ① 道徳の授業研究
・「議論する」道徳の授業づくり
・学年共通の指導方法、指導内容の研究
- ② ふるさと教育の推進
- ③ 情報モラル教育の徹底
・専門家等による具体的な事例研究

3：いじめ問題、不登校等への対応

- ① 所属感を高める学級経営、教科経営の充実
- ② 「ほっと」などのデータを活用した教育相談の充実
- ③ スクールカウンセラー等を活用した研修
- ④ 関係機関との連携
- ⑤ 小樽市の取組への積極的な参加

4：読書活動の推進

- ① 朝読書の取組
- ② 図書館司書と連携した生徒会図書委員会活動の充実
- ③ 小学校及び地域、関係機関等と連携した読書活動の推進

5：生徒会活動の活性化

- ① 学級活動を基盤とした生徒会活動の充実
- ② PTA 活動と連携した取組
- ③ 2 小学校の児童会、地域との交流・連携
- ④ 小樽市の取組への積極的な参加

【家庭の取組】※家庭が役割を担って取組む内容

1：会話を大切にしたい子育て

- ① 親子で一緒に出来ることを増やす（趣味、スポーツ、読書、家事、ボランティアなど）
- ② 学校、地域の行事への積極的な参加（生徒と地域をつなぐ活動）

2：親子で進める情報モラル運動

- ① 小樽市のルール「おたるスマート7」の徹底
- ② 情報モラル教室、ネットパトロール体験会への参加

【地域の取組】※地域が役割を担って取組む内容

1：ふるさと教育支援活動

- ① 北小樽地区の歴史、伝統、文化の伝承（高島越後盆踊り保存会との連携等）
- ② 潮ねりこみへの参加、協力

2：地域ボランティア活動

- ① PTA と生徒会活動の連携（清掃活動等）

たくましく心身を鍛え、自らを律する生徒

～集団としての自治的能力を育て、高める～

【学校の取組】

1：体力向上のための体育授業の工夫・改善

- ① 小中9年間を通じた体力の向上
- ② 日常の基礎体力作り
- ③ 陸上大会の実施（手宮陸上競技場の活用）

2：健康、安全教育の充実

- ① 地域と連携した防災教育の推進
 - ・地震、土砂災害、津波被害等への対応
- ② 安全教育の徹底
 - ・危険予測・回避の能力を高める指導
 - ・PTA活動と連携した登下校指導、マメールの効果的な活用
- ③ 健康教育の推進
 - ・性教育、薬物乱用防止、飲酒・喫煙防止にかかわる指導の充実
 - ・感染症予防にかかわる啓発及び指導の充実
- ④ 命を考えさせる場面の設定
 - ・「自殺防止教育プログラム」の実践
 - ・ストレス対処力を身につける指導

3：生活習慣の改善

- ① 食育指導の工夫
 - ・専門家等による指導、栄養管理ができる生徒の育成等
- ② スマホやゲーム等の使用と健康を考えた小中一貫指導
 - ・メディアチェックシート等の活用によるセルフコントロールの育成

4：心と体を鍛える部活動の推進

- ① 目標を明確にした主体的な活動
- ② 本校ガイドラインに基づく休養日等の設定

5：社会につながる人間性の涵養

- ① 時間を守り、場を清め、礼を正す指導
- ② 地域の行事、ボランティア等を通じた社会貢献活動

【家庭の取組】※家庭が役割を担って取組む内容

1：望ましい食習慣、運動習慣の形成

- ① 「早寝早起き朝ごはん」の取組
- ② ゴミ捨て、掃除、洗濯、雪かきなど体を動かす家事の役割分担
- ③ 家族で一緒に取り組める軽運動の工夫

2：健康管理

- ① 手洗い・うがい・咳エチケットの習慣化
- ② 天候に合わせた服装の指導（肌着、外套等）
- ③ 各種感染症対策（マスク着用指導、バス通学対策等）
- ④ ほけん便り等の活用

【地域の取組】※地域が役割を担って取組む内容

1：安全指導における地域の見守り活動

- ① 学校の「挨拶運動」と連携した「声かけ運動」
- ② 危険な行為や非行行為の学校への連絡協力
- ③ 学校行事への積極的な参加

2：部活動の外部指導者の協力

- ① 地域在住の指導者の協力

3：地域産業と食を考える取組

- ① 地域産業の現状とまちづくりについて（職業講話等の実施）

4 各経営方針及び計画等

(1) 教育課程の編成方針

- ① 新たな学習指導要領の移行期間を踏まえ、学校の教育目標を具現化するために、生徒や家庭の実情と教職員の創意工夫を生かした教育課程を編成し、PDCAサイクルを確立しながら、改善すべきは迅速に対応し、生徒の学力向上を進める。
- ② 2小学校と綿密に連携し、中1ギャップの解消を踏まえた小中一貫教育を推進する。
- ③ 特別活動、総合的な学習の時間の抜本的な見直しを進めるとともに、ねらいに基づく全体計画を踏まえた指導を充実させる。
- ④ 年間授業時数の確保及び弾力的な運用、指導内容の充実を図り、意図的・計画的な運用を図る。
- ⑤ 読解力、表現力を養うNIEを継続して全校で取り組む。
- ⑥ 学校運営協議会での意見等を参考としたコミュニティースクールの運営に取り組む。

(2) 学年・学級

- ① 学年主任が中心となり、学年共通の学級経営を行う。
- ② 全学級が学級経営案に基づき、生徒にとって安心できる、魅力ある学級経営をこころがけ、意図的・計画的・組織的に共通の取組を展開する。
- ③ 学校の教育目標及び年度の重点目標、5つの指導方針を踏まえた学年・学級経営案を作成し、これを基にした、学期毎の成果と課題の共有、評価・検証・改善を行う。
- ④ いじめを許さず、生徒の自己肯定感を高める学年集団、学級集団づくりをする。

(3) 教科経営

- ① 教科の目標と本校生徒の課題を踏まえ、生徒の力を最大限の伸ばす年間指導計画を作成する。
- ② 教科代表を定め、定期的に教科部会を開催し、指導方針や内容を検討する。
- ③ 各教科の評価基準に基づき、授業評価など客観的なデータの集積をし、指導と評価を充実する。
- ④ 2小学校の学力等の状況を分析した系統性のある教科経営を行う。
- ⑤ 図書館を有効に活用した教科経営を推進する。

(4) 分掌経営

- ① 各部長が中心となり、各分掌の基本方針、重点、計画等を定め、分掌部会を機能させた組織的な業務を行う。
- ② 小中一貫教育推進委員会に向けた協議等行い、職員会議等を通して全職員で推進する。
- ③ 企画委員会を通じて、職員会議の議題等を整理し、計画の進捗状況の確認や修正を行う。

(5) 学校事務

- ① 基本方針に基づき、計画的、効率的な学校事務を行う。
- ② 全職員の協力による備品の維持管理を行う。
- ③ 財源を見据えた節約と効果的な整備を行う。
- ④ 総務として管理職、主幹教諭を位置付ける。
- ⑤ 教員が金銭を扱うことがないよう、業務の見直しを進める。

(6) 環境整備

- ① 生徒の健康と安全を第一と考えた教育環境の整備を行う。
- ② 教職員の勤務時間が適切なものとなるよう業務改善を進める。
- ③ 学校教育全体を通して、生徒と共に活動できる時間を確保する。
- ④ 学校図書館の更なる充実に努める。
- ⑤ 地域住民との防災対策等を進め、危機管理体制を充実させる。
- ⑥ 施設設備の安全点検と保持を行う。